

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		生態系の保全と農林漁業の両立をめざして—北海道・道東地域を事例として—			
研究テーマ (欧文) AZ		Wildlife Management and Agriculture/Forestry - A Case Study on Yezo Deer Management in East-Hokkaido -			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓)オクダ	名)イクオ	研究期間 B	2007年 ~ 2008年
	漢字 CB	奥田	郁夫	報告年度 YR	2009年度
	ローマ字 CZ	Okuda	Ikuo	研究機関名	名古屋市立大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科・教授			
<p>概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究の成果は、これまでのところ本報告書2頁に記載の論文(2編)である。</p> <p>1. 地域農林経済学会誌報告論文においては、つぎの点を明らかにした。 北海道においては、エゾシカの増加が、年々30億円に近い農林業被害をもたらしている。エゾシカは明治初期に乱獲と豪雪によって、一時期絶滅の危機に瀕したが、その後の保護政策によって頭数が増え、2008年現在では、35万頭ほどが道内に生息していると推定できる。 北海道とエゾシカ協会は、「順応的管理 adaptive management」を基本とした保護管理政策によって、エゾシカによる農林業への被害防止に取り組んできている。これは、生息頭数の調査結果にもとづいて年々の捕獲頭数を決定し、エゾシカを絶滅から守ると同時に、その過剰な増加による農林業被害も抑制しよう、とするものである。捕獲したエゾシカは食肉として活用することを原則としている。</p> <p>2. 上記論文では、農林業への被害全般について考察したが、図書掲載論文では、とくに阿寒・一步園財団所有の森林を事例として、その被害対策の現状を検討した。 一步園では、立木へのエゾシカ被害を防止するために、樹木本体に樹脂製のネットを巻く、という対応などを採ってきた。しかしながら、その効果は限定的であるため、エゾシカを捕獲し、頭数管理をせざるをえない実状にある。一步園では、わな猟による一斉捕獲を2004年度から始めている。捕獲されたエゾシカは、釧路市の北泉開発(株)に引き取られて、一時養鹿後、食肉として販売されている。 以上のような保護管理政策が実施されてきているが、捕獲の主体である道内のハンター人口は減少傾向にあり(1978年=約20,000人、2005年度=約9,000人)、今後の捕獲体制をどうするか、という課題を有している。</p>					
キーワード FA	生態系	保全	野生動物		

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	野生生物と農林業の共存－北海道のエゾシカ被害を事例として－							
	著者名 <sup>GA</sup>	奥田郁夫・古林英一	雑誌名 <sup>GC</sup>	農林業問題研究					
	ページ <sup>GF</sup>	pp. 224～230	発行年 <sup>GE</sup>	2009年	9月			巻号 <sup>GD</sup>	第45巻・第2号
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>	奥田郁夫（名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 編）							
	書名 <sup>HC</sup>	『芸術工学への誘い XⅢ』中、「森林の保全とエゾシカの保護管理の両立をめざして」							
	出版者 <sup>HB</sup>	岐阜新聞社	発行年 <sup>HD</sup>	2009年	3月	31日		総ページ <sup>HE</sup>	全317頁中、18頁
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

欧文概要 <sup>EZ</sup>

Controlling wild animal population has become an important issue to secure the sustainability of agriculture/forestry in Japan.

In this research, we studied Yezo Deer management in Hokkaido. Since 1998, Hokkaido Government and Yezo Deer Association have adopted adaptive management to control Yezo Deer. Their purpose is to protect Yezo Deer from extinction while controlling the population below a certain number (around 200,000, right now in Hokkaido).

Now in East Hokkaido, Yezo Deer are overpopulated and they cause serious damages on agricultural lands and forests. Since 1995, they constructed about 3,300km of fences to protect crops and trees from the damages. Also, they try to catch deer and make the best use of the meat.

But deer are increasing very rapidly and they have not succeeded in stabilizing Yezo Deer population yet.